

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	建築デザイン						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	選択必修科目(建築工学コース)、選択必修科目(建築コース)、選択必修科目(デザインコース)						
担当者	井原徹						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築デザインの基本的構成要素を把握し説明できる。(B4) ・建築構成の分析と問題発見を行うことができる。(B4) ・建築デザインの主な理念と方法を把握し説明できる(B4) ・最近の建築デザインの傾向を把握し建築デザインの理論について説明できる。(B4) 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法。建築デザインとエンジニアリング</p> <p>第2回：建築デザインの近代：近代建築と計画のはじまり、転換期の建築デザイン、近代の巨匠の建築とデザイン</p> <p>第3回：建築デザインの二〇世紀：現代建築の視座、場所・構造・意味</p> <p>第4回：建築デザインにおける日本の戦後：日本戦後近代の建築、日本の建築と都市</p> <p>第5回：建築デザインにおける表記の射程：意図の伝達、子高の外在化</p> <p>第6回：建築の原点と建築デザイン：原始の小屋と建築デザインの理念</p> <p>第7回：建築の要素と建築デザイン：内と外、和と洋、壁と窓、床と柱</p> <p>第8回：中間のまとめ</p> <p>第9回：建築の形とデザイン：単位と形、形の操作、形の組織化</p> <p>第10回：建築の部分と全体のデザイン：調和とプロポーション、身体と人間尺度、部分と全体</p> <p>第11回：建築におけるひかり：建築の光、陰と光、日本の光、多様な光</p> <p>第12回：建築デザインと空間：空間の位置づけ、連続な空間と非連続な空間</p> <p>第13回：建築デザインと近現代都市：近代の都市化、都市のイメージ、グローバリズム</p> <p>第14回：建築デザインの持続可能性：文化・リサイクル・省エネと建築デザイン</p> <p>第15回：全体のまとめ 定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	40%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・建築デザインの基本的構成要素を把握し説明できる。達成できた。 ・建築構成の分析と問題発見を行うことができる。：構成を分析するまでには至っていない。 ・建築デザインの主な理念と方法を把握し説明できる。達成できた。 ・最近の建築デザインの傾向を把握し建築デザインの理論について説明できる。：一部難解な理論を説明出来ない。 						
反省点	<p>本年は教員交代のため、初講義であった。理解力を越えた内容となってしまった。</p> <p>建築デザインの科目に対する認識が理解されておらず。学生は一部の理論のみに興味を持ってしまい、全体的理解にたった上での建築デザインを評価するに至っていない。</p>						
来年度の計画	<p>予備知識が少ないことから内容が多すぎたようである。来期は、建築デザインの理論を厳選して授業を組み立てたい。</p>						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>10点総合評価で平均7.5点は意外に低かった。科目の内容の理解と、学生の興味が一部に偏っており、残念ながら評価には直結していない、全体的理解が必要であることを強調し、幅広い知識に基づいた講義としたい。</p>						
履修登録者数	104名	定期試験 受験者数	95名	合格者数	68名	合格率	72%